（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和４年度　学校自己評価システムシート（県立川口北高等学校）

目指す学校像	文武両道の精神のもと、高い志と品格を備えた未来を拓くグローバルリーダーを育成する学校

重点目標	
	１　自ら勉学に真摯に取り組む姿勢により学力の向上を図る。 ２　満足度の高い生徒全員の進路希望の実現を図る。 ３　文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図る。 ４　グローバル社会に対応し、国際社会に目を向けた教育を推進する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、
最終回の学校評価懇話会を
開催し、学校自己評価を踏まえて
評価を受けた日とする。
※コロナ感染防止対策で紙面開催

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価

年度目標					年度評価（２月２０日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ＧＩＧＡスクール構想により、情報端末の導入や授業での活用、個人情報の蓄積など、ＩＣＴ活用を全校で推進してきたが、ＢＹＯＤ回線が有効に活用されていない状況であった。そのため、昨年度４月に全校生徒の個人端末（スマホ）をＢＹＯＤ回線に接続し、授業等で有効活用できるよう整備した。しかし、授業で活用するにも生徒の個人端末（スマホ）では画面が小さく資料が見づらかったり、キーボードがないため入力が難しかったりなどの理由から、ＩＣＴ活用は横ばいであった。そのため、今年度入学生からＢＹＡＤ方式によるタブレット端末（ｉＰａｄ）１人１台環境を年次進行で導入することを決定した。 【課題】 今年度から導入した生徒のタブレット端末（ｉＰａｄ）を授業やその他の教育活動でフル活用し、生徒の学力向上にどのように役立てていくのかを効果検証するとともに、ＩＣＴ活用とアクティブ・ラーニングを融合した授業、教科横断型授業、文理融合型授業などの「新しい学び」を研究・実践する。 学習状況調査を活用し、授業研究を通して、主体的・能動的な学びを促す授業を推進し、自立した学習者を育てる。	○予習・授業・復習の黄金サイクルによる学力向上支援 ○主体性を持って学ぶ態度を育成する。 ○教員の教科指導力向上に関する取組 ○教員と生徒のＩＣＴ活用環境の充実。	①ＩＣＴ活用の研修会の実施、様々な情報の共有 ②土曜授業公開の効果や課題を検討 ③学習観点別評価の研究 ④ＩＣＴ機器（iPad・Windows PC・Chromebook・プロジェクタ等）を活用して授業や各種調査等の実施 ⑤授業公開の企画・運営と授業研究会の実施	①ＩＣＴ活用とアクティブ・ラーニングを融合した授業、教科横断型授業、文理融合型授業などの「新しい学び」を研究し、実践できたか。 ②土曜授業が円滑に実施できたか。 ③学習観点別評価を適正に行えたか。 ④授業等で活用できるように使用方法を伝えられたか。 ⑤授業公開・研究会を通し授業力向上に繋がる情報交換が行えたか。	①「新しい学び」研究会を立ち上げ、教科横断型授業の実践研究を行った。 ②予定通り年間１４回を滞りなく実施。授業見学者も若干増加している。 ③単元ごと自己評価シート、三観点と評定の方法を全体で共有し、調整を行った。 ④研修会を開き、教員が授業にＩＣＴ機器を積極的に使えるようになった。 ⑤授業力向上研修会を実施し、活発な意見交換をすることができた。「新しい学びを創る会」を立ち上げ教員が相互に研鑽する体制を作れた。	A	iPad の１、２年生へ導入を受け、授業と校務支援への活用を引き続き研究し、活用を進める。 「新しい学びを創る会」がイニシャチブをとり、川口北高の学びを創生する校内体制の推進と三観点評価が円滑に進められるよう研修会を行って情報共有する。
2	【現状】 昨年度は自ら立てた学力的目標に達することができない生徒も散見されたが、全科目を生かした地方国公立大学で希望進路に進める生徒も多くいた。 【課題】 引き続き全ての科目を大切にし、選択の幅を狭めることなく、最後まで諦めさせないために、適時に進路意識を高める機会を作る必要がある。また、生徒の情報を教員間で共有するだけでなく、生徒へ大学情報を公開し、納得いく出願と受験をさせ、満足度の高い進路実現をさせる。	○生徒に高い志を持たせ、進路意識を高める。 ○生徒が満足度の高い出願と受験の支援をする。 ○生徒を易きに流さず、粘り強く努力することを全力で支援する。	①進路指導計画に基づいた目標合わせシートで共通理解を図る。 ②進路行事の見直し、改善・充実 ③高大連携講座や入試説明会・推薦大学の情報開示の見直しと改善	①目線合わせシートが年に複数回発行できたか。 ②生徒が納得できる出願や受験をするための助けとなる進路行事が実施できたか。 ③高大連携講座・入試説明会・推薦大学の情報共有など、生徒の満足度が高い進路指導ができたか。	①３学年で目線合わせシートを８回発行し、学年会で情報共有できた。 ②進路オリエンテーションを１学年で２回、２学年で２回実施し、外部講師からの講義を２学年で１回、３学年で２回実施し、情報提供した。 ③２学年で大学出張講座、３学年で主説明会を実施。また推薦大学の情報を classroom や掲示で共有した。学校満足度調査では、生徒・保護者とも８６％が満足している。	A	担任や分掌を通じて丁寧な進路指導を行うことができた。指導内容や実施方法を十分に検討し生徒に高い志を持たせることが課題である。
3	【現状】 凡事徹底・奮励努力・威風堂々を心掛けさせ、真摯な態度で学習や部活動、学校行事など全てのことに全力で臨ませることを継続的に指導してきた。 【課題】 基本的生活習慣が確立している生徒は多いが、学習や進路等に対する不安から心身の不調を訴える生徒が顕在化してきており、教職員の連携を深める必要がある。自分自身の健康に関心を持ち、かつ心身の健康を維持しながら学習や部活動等に取り組むことができるような自己管理能力を持った生徒の育成が課題である。 生徒会活動は自主自立という観点から高い水準にあり充実しており、引き続き自ら考え行動する力が増すような活動を意識させたい。新型コロナウイルス対策を含め、北高祭の質的向上を目指し、地域や中学校との自主的な交流を行う。	○積極的な生徒指導の推進 ○安全指導の徹底 ○健康診断の実施と結果の活用 ○教育相談の活用 ○自主的な生徒会活動の育成 ○近隣住民や中学校との交流の促進	①朝の立哨指導と８時15分登校の励行、授業時のチャイム着席の励行 ②担任や各学年による日々の指導と遅刻指導及び服装頭髪指導 ③通学時の交通安全意識を高め、自転車乗車マナーの徹底及び指導 ④健康調査に基づいた健康診断の実施と診断結果に基づく個別指導 ⑤カウンセラーやソーシャルワーカーによる個別指導 ⑥生徒会本部役員の自立的な活動 ⑦近隣住民や中学校、他校との交流会の実施	①各学年の朝の遅刻指導を受けた生徒数が前年度より減少したか。 ②全学年の年間遅刻総数が 500 回以内、頭髪服装指導を受けた生徒数が前年度より減少したか。 ③交通事故の件数や苦情の件数が減少したか。 ④健康診断は確実に実施できたか。 ⑤教育相談の充実度が上昇したか。 ⑥定例会での発言の質は向上したか。 ⑦近隣住民や中学校との交流会が実施され、内容が充実したか。	①全学年の１年間総数で、前年度 16 人に対し、今年度は 10 人と減少させることができた。 ②全学年の遅刻総数が 1155 回（昨年 657 回）と目標を達成することができなかった。 ③登下校時の軽微な交通事故、自転車マナー等への苦情数件と、昨年とほぼ同様だった。 ④健康診断を４月～６月に予定通り実施し、生徒の健康管理に努めた。 ⑤SC の来校により、生徒保護者との面談を行い生徒や保護者の心のケアに努めた。 ⑥自分の考えを持って発言や他者に働きかける発言が増えた。 ⑦コロナ禍の影響で今年度は実施できなかった。	B	朝の立哨指導や生徒への声かけ等の日常指導を粘り強く続けることで一定の指導効果を上げることはできている。次年度は慣れから来る生徒や教員の意識の薄れを払拭できるよう、指導の意義や目的を全体で再度確認することが課題である。
4	【現状】 昨年度目指す学校像を見直し、本校のグラデュエーションポリシーである、身に付けさせたい１０の力（ＫＫ１０）が改訂された。また、文武両道の精神のもとでこのようなジェネリックスキルがどのくらい生徒に身に付いているのか測るアセスメントテストを導入したが、その分析や活用が不十分であった。 【課題】 総合的な探究の時間を有効に活用し、グローバル人材の育成を目指すと共に、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	○生徒の自己理解を促進する。 ○分析結果を教育活動改善に生かす ○国際理解教育の推進 ○世界に目を向けた生徒の育成	①アセスメントテストの結果データを活用・分析し、全教職員で共有する。 ②アセスメントテストの事前・事後指導を徹底する。 ③ＳＤＧｓなどをテーマとした探究活動や姉妹校などとのオンライン交流 ④教養講演会の実施	①データを活用し分析会が実施できたか。 ②事前・事後指導が実施できたか。 ③総合的な探究の時間を活用し、グローバル人材を育成し、国際交流を推進するためのオンライン交流などを実施することができたか。 ④教養講演会を実施し、世界に目を向けた生徒を育成できたか。	①１学年４月に実施したテストについて、分析会を行い情報共有することができた。２年は２月に実施予定。 ②事前指導については改善点があるが、事後指導は講師を招いて振り返った。 ③「Tokyo Global Gateway」に 16 名が参加。英作文ｽﾋﾟｰﾁｺﾝﾃｽﾄで奨励賞を受賞した。 ④「日本政策金融公庫の探究学習」や「県政出前講座」など、外部機関と連携し、生徒の視野を広げることができた。	A	総合的な探究の時間を活用し、生徒の視野を広げ、自ら学び主体的に判断する力を育成することができた。次年度はアセスメントテストを活用し生徒自身が自己理解を深められる取組をすることが課題である。

学校関係者評価

実施日	令和　５年　３月　３日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
	・生徒の学力を向上させるにあたり、教員の指導力向上は極めて重要な要因であると考える。 御校の授業力向上研修会の地道な取り組みや、「新しい学びを創る会」の立ち上げなど、教員が相互に研鑽を積んでいる姿は素晴らしいと思う。教職員の方々のこうした姿は生徒にもよい影響を与えると考えている。 今後はこうした機運を校内に広げて充実させ、校外や地域に積極的に発信することで学校の魅力、特色の一つになることを期待している。
	・生徒や保護者の願いや期待を充分に汲み取る手段として目線合わせシートを活用するのが素晴らしいと思う。進路指導への情報提供が充実しているのが学校満足度の結果からも感じられる。現状に満足せず一つ上を目指す生徒の育成のためにどのような足場をかけてあげるのか、集団指導と個人対応両面でご苦労があると思うが期待している。
	・基本的生活習慣の確立が学力向上にもつながると考える。その点では「凡事徹底」を継続的に指導されており、文武両道の校風と北高を誇りに思う生徒の育成に効果を上げていると考える。学力の非認知能力の育成にとっても自己管理能力や自己指導能力の育成が重要であると考える。 生徒指導に関しては「個の課題」が大きいと推察するが、「社会」との接点を多く持ち、ものの見方や考え方を「使う場」の設定をし、自己管理能力や自己指導能力を高めていけるような指導を期待している。
	・激しく変動していくこれからの社会を生き抜くために、生徒にグローバルな視点を持たせ、主体的に問題を解決していく力を育成することは重要である。学校の教育課程全体で「グローバル教育」のスコープとシーケンスをどう系統化するか、具体化、明確化を進めて行くことが大切であると考える。